

単元名

複数の作品を読み比べ、古典文学作品が「どのように」書かれているか考えよう

1 単元の目標

- (1) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 [知識及び技能] (2)ウ
- (2) 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動と教材

言語活動：複数の作品を読み比べ、文章の構成や展開、表現の仕方について、批評したり討論したりする。 (関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2)イ)

教材：「九月二十日のころ」（『徒然草』第32段）、「筒井筒」（『伊勢物語』第23段）、「月やあらぬ」（『伊勢物語』第4段）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方について評価している。(B(1)ウ)	複数の作品を読み比べ、批評したり討論したりすることを通して、文章の構成や展開、表現の仕方について粘り強く評価する中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全4時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「九月二十日のころ」の内容を理解するのに必要となる文語のきまりについて理解する。 ○「九月二十日のころ」において、筆者が伝えたいことを理解する。	[知識・技能]	「記述の確認」
2	○筆者が伝えたいことを効果的に伝えるために、どのような工夫をしているか、「筒井筒」または「月やあらぬ」と読み比べて考える。 ○個人の考えをグループで検討し整理する。	[思考・判断・表現]	「記述の確認」 「行動の観察」
3	○各グループでまとめたものを発表する。 ○他のグループの発表を参考にして、自分の考えを批評する。	[思考・判断・表現]	「記述の分析」

	評文にまとめる。	[主体的に学習に 取り組む態度]	「記述の確認」
--	----------	---------------------	---------

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・ 評価方法等
1 (1単位時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「九月二十日のころ」の内容を理解するのに必要となる文語のきまりについて理解する。 ○「九月二十日のころ」において、筆者が伝えたいことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標や学習方法等を説明し、特に本単元では「どのような内容が書かれているか」ではなく、「どのように書かれているか」ということに着目することを理解させる。 ・本文の内容を理解するのに必要な文語のきまり（特に、敬語の意味や用法、助動詞「まし」の意味）について理解させる。 ・本文で筆者が伝えたい、主張したいことは何かを考えさせるが、教科書に記載している「学習の手引」を参照するように指示する。 ・筆者が伝えようとしている「その人」の「ものあはれ」な振る舞いについて説明する。 	<p>[知識・技能] 「記述の確認」 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文語のきまりについて理解しているか、ワークシートの記述で確認する。
2 (2単位時間)	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">本時の授業は2単位時間の中の1時間目に該当。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【個人】 筆者が伝えたいことを効果的に伝えるために、どのような工夫をしているか考える。 ○【個人】 考えたことをワークシートにまとめる。 ○【グループ】 個人で考えたことをグループで検討する。 ○【グループ】 検討した結果を整理し、発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前次で理解した、筆者が本文で伝えようとしている「その人」の「ものあはれ」な振る舞いについて、「どのように」伝えようとしているかを考えさせる。 ・考える手がかりとして、次のことを示す。 <ul style="list-style-type: none"> ① 文章の構成や展開、表現の仕方に着目すること。(生徒へは「どのような工夫をしているか」という問いで説明。) ② 「筒井筒」または「月やあらぬ」と読み比べ、本文との共通点に着目すること。 【説明】 ①を考える際は②を手がかりにする。(「筒井筒」または「月やあらぬ」のどちらか1つでよい。) 思考の途中でAについては本文プリントの挿絵もヒントとなることを伝える。 ・「筒井筒」については、「九月二十日のころ」と比較しやすいように抜粋したものを示す。 ・ワークシートは、「工夫」と「効果」の2点について記載する構成とする。 ・グループは5人1組とし、全6グループとなるようにする。 ・グループで検討した結果を Google スライドにまとめさせる。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; display: inline-block; margin: 10px 0;">ここまで本時の授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドはドライブで共有し、次時の発表の際に各自で参照できるようにする。 	<p>[思考・判断・表現] 「記述の確認」 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の構成や展開、表現の仕方について、個人で考えたことやグループで検討したことを確認する。 <p>「行動の観察」 話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成や展開、表現の仕方について、批評したり討論したりして検討しているかを観察する。 <p>※本次の評価は、指導に生かす評価とし、最終的には第3次で総括的に評価する。</p>

<p>3 (1単位時間)</p>	<p>○【グループ】 各グループでまとめたことを発表する。</p> <p>○【個人】 他のグループの発表を参考にして、自分の考えを批評文としてまとめる。</p> <p>○【個人】 単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ではスライドに書いていることを読み上げるだけのものにならないよう、検討した経緯等も含めて、「他者に伝える」ことを意識させる。 ・発表時間は各グループ4分以内とする。 ・他のグループの発表を聞く際には、適宜メモを取るよう促し、批評文を書く際の材料とするように伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・批評文の作成には、「評価する」ことを意識させるために、「ワークシートに示している言葉に続けて書く」ように指示する。 ・「工夫」と「効果」に加え、さらに批評するところがあれば、記述する。 ・作成が授業時間内に終わらない場合は、次時までに提出するように伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記述した「最初の考え」から、単元の学習を通して自分の考えがどのように変わったかを自己評価し記述するよう促す。 	<p>[思考・判断・表現] 「記述の分析」 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の構成や展開、表現の仕方について、評価しているか記述内容を基に分析する。 <p>[主体的に学習に取り組む態度] 「記述の確認」 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他グループの発表からわかったこと、考えたこと等を参考にして、ワークシートにまとめているか確認する。
----------------------	---	--	---